

大在地区

1. まちづくりの目標

「緑で飾られた新業務拠点、住宅地域の形成」



本地区は、大野川河口部右岸地域において市街地が形成されています。JR 日豊本線の北側一帯が土地区画整理事業により整備され、計画的な土地利用の誘導が図られています。

臨海部の埋立造成地である大在公共埠頭周辺については、大分港大在コンテナターミナルに運輸企業や発電所など多くの企業が立地しているほか、RORO 船ターミナルの強化が進められており、九州随一の物流拠点として本市の産業発展を担う重要な地区として期待されています。

また、地区内には日本文理大学が立地しているほか、区画整理完了に伴う人口増加から平成17年には新たに大在西小学校が開校されるなど、子育て世代が多いことも地区の特徴となっています。

このようなことから本地区は、「緑で飾られた新業務拠点、住宅地域の形成」をまちづくりの目標とします。

大在地区の将来都市構造図



序章 都市計画マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

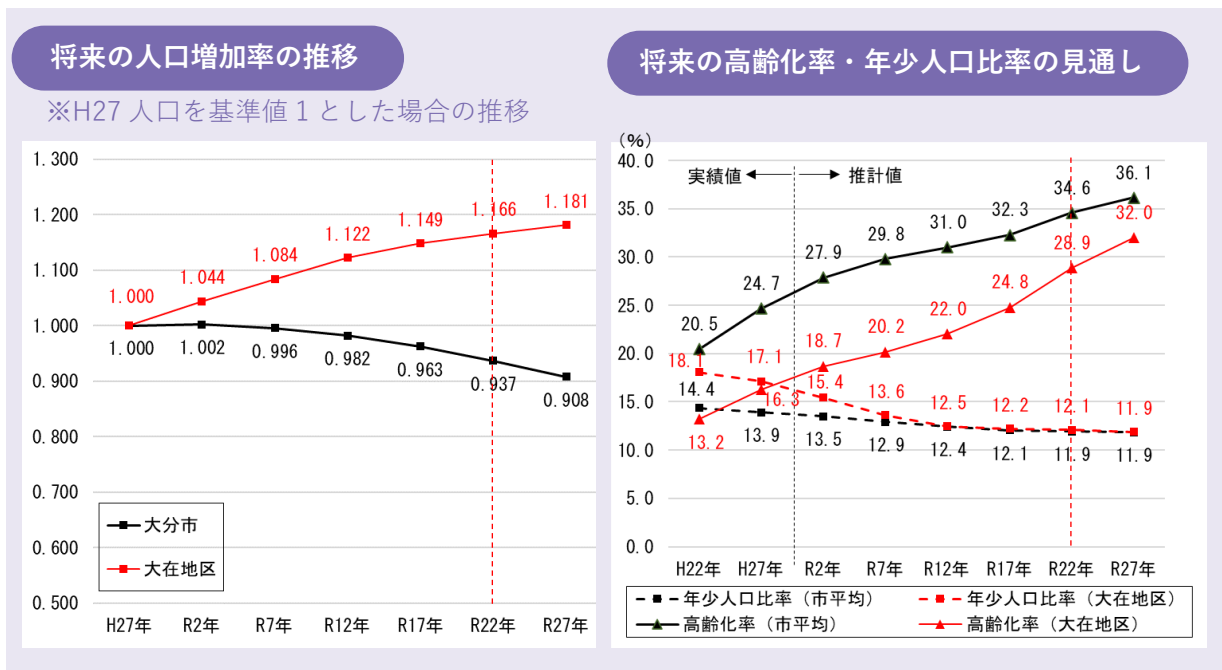
第3章 地区別構想 大在地区

第4章 計画の実現に向けて

第3章 地区別構想

2. 地区の現況

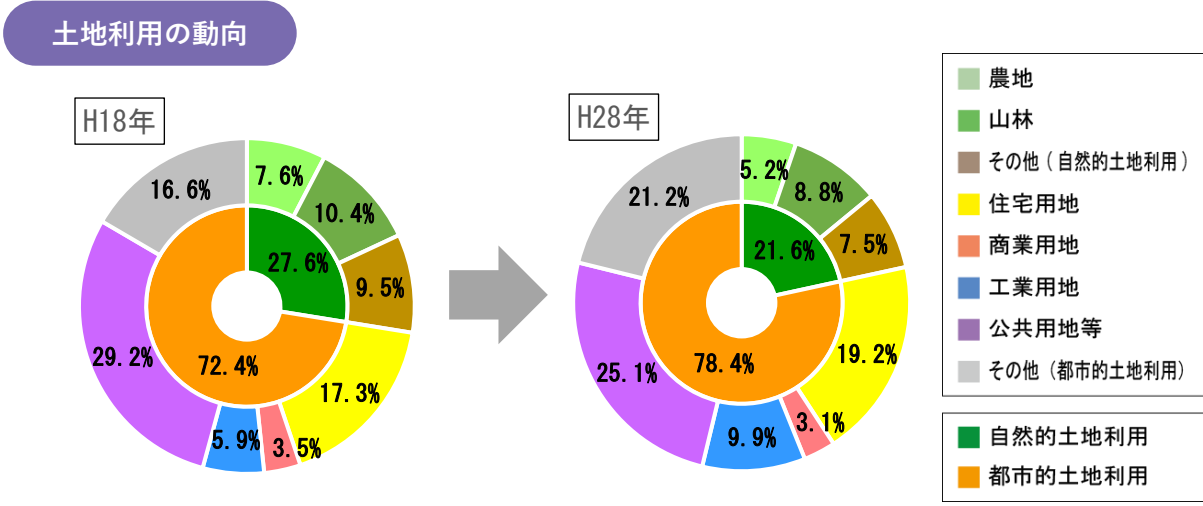
- ・大野川河口の歴史のある地区で、南側の丘陵地には古墳群がみられます。JR 日豊本線北側地区では広い範囲で土地区画整理事業が施行され、JR 大在駅周辺を中心に市街化が進行しています。
- ・臨海産業道路から北側地区は大分港港湾区域となっており、大在公共埠頭の整備が図られています。
- ・地区人口は、昭和 38 年に約 8 千人であったものが、平成 27 年には約 2.9 万人と 3 倍以上になっています。
- ・将来人口は増加傾向にあり、令和 22 年には 1 割強増加する見通しです。平成 27 年の高齢化率は 16.3%であり、令和 22 年には 28.9%と、高齢化が進行する見通しです。年少人口は、平成 27 年には 17.1%で市平均よりも高いものの、令和 22 年には 12.1%と少子化が進行する見通しです。



※推計値は、「大分市人口ビジョン」に示す「地域別の人口推移」を基に作成

※この推計は、2010年から2015年までの5年間の人口変動が将来にわたって続くと仮定し計算したものであるため、2016年以降に人口変動に大きな影響を及ぼす要因が発生した場合、将来人口推計が大きく変化する可能性があります。

・土地利用動向については、地区面積 1,318ha で宅地や道路などの都市的土地利用面積が 78.4%、農地や山林などの自然的土地利用面積 21.6%となっています。平成 18 年から平成 28 年にかけては、工業用地やその他の都市的土地利用の増加が顕著です。



- ・ 交通体系としては、東西方向の都市内連携軸として(都)臨海産業道路、県道大在大分港線及び国道 197 号があります。国道 197 号では、角子原周辺において交通量が多く交通渋滞が発生しています。
- ・ JR 大在駅に自由通路が整備され、駅南北のアクセスが向上しました。
- ・ 土地区画整理事業による基盤整備とあわせて、都市計画公園・緑地、公共下水道などの整備が一体的に行われており、整備率は高い地区となっています。
- ・ 国道 197 号の南側には、住宅団地開発が進行しています。また、岡地区には先進企業の進出がなされ、今後とも周辺地区において、関連する開発が予想されます。
- ・ 臨海工業地帯として埋め立てられた海岸部には、九州電力新大分発電所や大規模太陽光発電所、大分港大在コンテナターミナルなどが立地しています。また、大在公共埠頭に RORO 船が発着することで、近年物流量が増加しています。

第3章 地区別構想

3. まちづくりの課題

1 | 土地利用・市街地整備

- ・ JR 大在駅周辺においては、地区の拠点として商業・業務機能の集積が望まれています。
- ・ 大分港大在地区及びその周辺地区は、東九州の物流・情報交流の拠点として期待されている地区であり、RORO 船ターミナルの充実など物流機能の強化が求められています。
- ・ 臨海部の工業地帯における低・未利用地では、工業誘致などの計画的な土地利用の促進が必要です。
- ・ 岡地区においては、情報通信機器の製造及び関連する産業を計画的に誘導し、複合型産業業務拠点の形成を図ることが必要です。
- ・ 角子原地区周辺においては、岡地区における産業立地を踏まえた計画的な土地利用が必要です。

2 | 交通施設

- ・ 国道 197 号では交通量に見合った車線数の確保がされていない区間や橋りょう部分を中心に交通渋滞が発生しています。
- ・ JR 大在駅周辺における交通結節機能の強化が必要です。
- ・ 大在中学校周辺の安全・安心な歩行空間の確保に向けた取組が求められています。
- ・ 大在駅や歩道などのバリアフリー化の推進が求められています。
- ・ 少子高齢化の進展等に備え、交通弱者の移動の利便性や安全性を向上させる必要があります。

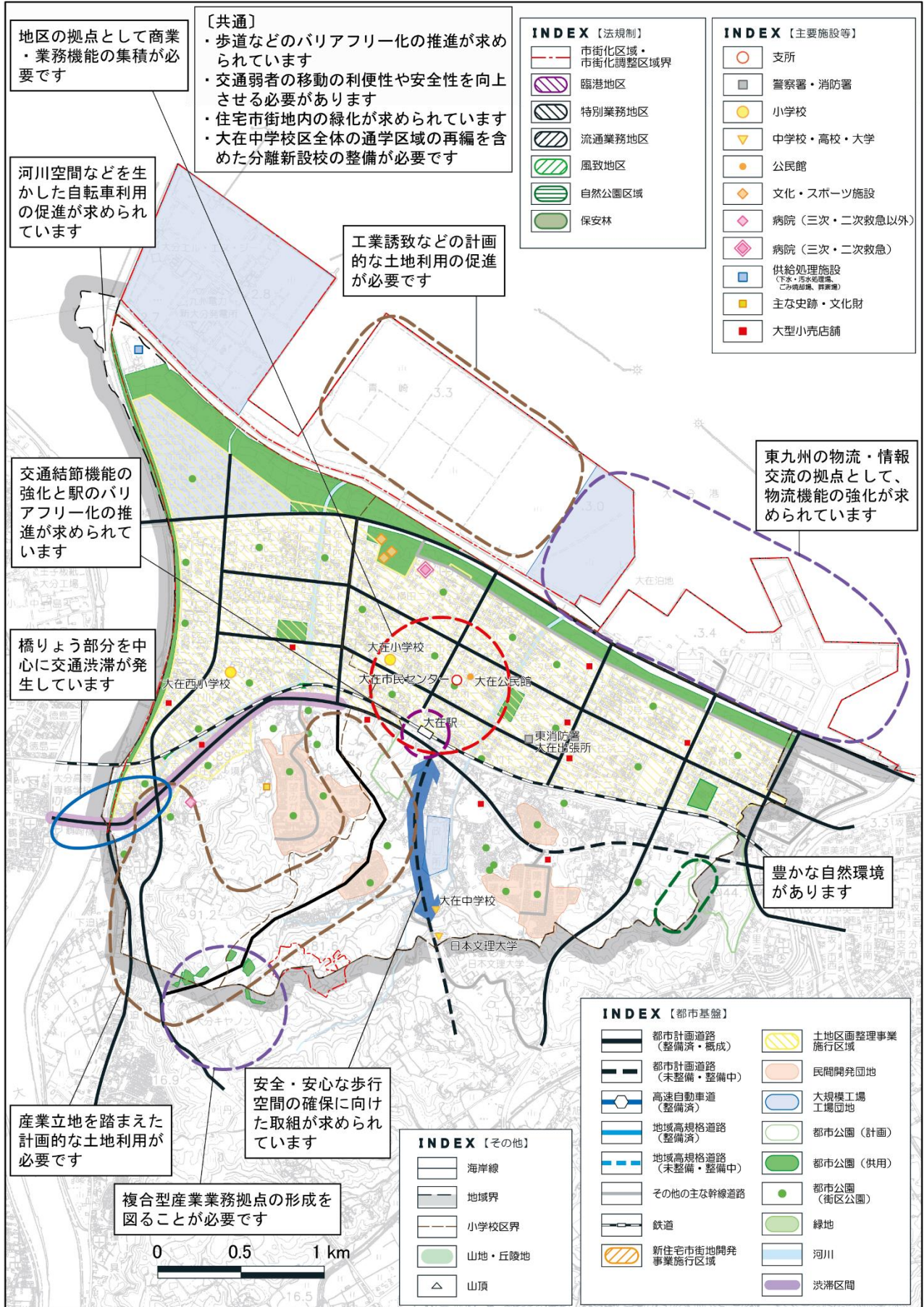
3 | 環境・景観

- ・ 緑豊かな住宅地形成のため、住宅市街地内の緑化が求められています。
- ・ 河川空間などを生かした自転車利用の促進が求められています。
- ・ 地区東部や南部に広がる豊かな自然環境の保全と活用が求められています。

4 | その他

- ・ 今後、人口の増加が見込まれる大在中学校区については、大在小学校及び大在西小学校の適正な学校規模を保持するため、大在中学校区全体の通学区域の再編を含めた分離新設校の整備が必要です。

大在地区の現況及び課題図



序章
都市計画
マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想
大在地区

第4章 計画の実現に向けて

第3章 地区別構想

4. まちづくりの方針

1 | 土地利用・市街地整備

- ・ JR 大在駅北側では、商業施設や大在市民センターなどの業務施設の集積を図り、臨海部の産業と連携した地区拠点の形成を図ります。
- ・ 輸出入の促進・円滑化に向けて、交通アクセスの強化を図るとともに、港湾計画を踏まえた大在公共埠頭に輸出入関連施設の集積や岸壁耐震化、RORO 船バースの増設などにより、東九州の物流の拠点としてふさわしい臨海物流拠点の形成を図ります。
- ・ 臨海部の埋立地に、工業系土地利用の純化のための計画的な土地利用をはたらきかけます。
- ・ 岡地区においては、臨海工業地帯や流通業務団地、自動車高速道路などへの交通アクセスの利便性を生かした複合産業業務拠点の形成を図ります。
- ・ 志村地区、角子原地区周辺などにおいては、現存している自然環境と調和しつつ、岡地区への産業立地を考慮した計画的な土地利用へ誘導を図ります。



JR 大在駅周辺



大在公共埠頭

2 | 交通施設

- ・ 国道 197 号の拡幅及び車線数の不連続区間の解消を促進し、坂ノ市方面から中心市街地への連携強化を図ります。
- ・ JR 大在駅において、交通結節機能の強化を図ります。
- ・ 歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・ 大在中学校周辺の安全・安心な歩行空間の確保に向け、生活道路の整備等の取組を進めます。
- ・ 大在駅周辺のバリアフリー化を推進します。
- ・ 公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。

3 | 環境・景観

- ・街路樹や住宅市街地内の緑化による緑のネットワークの形成を図ります。
- ・大野川の河川敷などの河川空間を生かした自転車利用を促進します。
- ・地区東部や南部に広がる豊かな自然環境の保全と活用を図ります。



大野川河川敷

4 | その他

- ・大在中学校区全体の通学区域の再編を含めた分離新設校の整備を推進します。整備に当たっては、施設の多機能化や集約化の可能性を検討するなど、より効率的かつ効果的に質の高い公共サービスの提供に努めます。

第3章 地区別構想

大在地区のまちづくりの方針図

